

10月1日からバスロケーションシステムが新しくなります

見附市コミュニティバスでは、スマートフォンやパソコンを通じて、バスの運行状況を確認できるシステム（＝バスロケーションシステム）として、平成23年から「doco です car」を導入・運用してきました。しかし供用開始から10年以上が経過していることから、更なる利便性向上を図るため、10月1日（日）から新システム導入による運用を開始します。

新たなバスロケーションシステムは、GPS機能を利用することで、自分の現在地から近いバス停を表示することができるほか、地図上でどこにバスがいるかを確認することができます。また時刻表と比較した遅延情報などの運行状況も表示され、これまで以上に見やすく使いやすいものとなります。

1. 導入システムの概要

- ・システム名：「バス予報」（同システムは県内初導入）
- ・イニシャルコスト：約800万円【国補助金により市負担額は約400万円】
- ・ランニングコスト：30,800円/月
- ・供用開始日：令和5年10月1日（日）

2. メリット

- ・スマートフォンでアプリを起動しGPS機能を利用することで、現在地から近いバス停の位置やどこにバスがいるかを地図上で確認することができます。
- ・細かな遅延情報が確認できるほか、車内の乗車可能人数情報も確認することができ、混雑する時間でも安心して乗車が可能です。
- ・本システム導入により自動で各バス停単位での乗降数がカウント可能となり、詳細なバスの利用状況等が把握できることから、効率的な運行ルートおよび利便性の高いダイヤ設定の分析、検討に役立てることができます。
- ・今回のシステム更新により、ランニングコストを約半分程度まで削減することができます。
（@63,470円/月→@30,800円/月）